

城郭景観と都市要素の連想構造について

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭
 岩手大学工学部 学生員 田子 洋一
 岩手大学工学部 学生員 〇三上 壽美義

1 序論

本研究は、都市における城郭景観と都市要素とのイメージ連想の構造を追究し、城郭イメージの広がりと興行さを深めるための基礎的資料を入手することを目的としている。

2. 調査対象、調査地域、および回答者

調査対象は、盛岡市における盛岡城城郭であり、調査地域は当市の市街化区域である。回答者は、市街化区域に居住する成人男女であり、その選定方法は市街化区域を500m×500mのメッシュに分割し、その中から8メッシュをランダムサンプリングで選定し、そのメッシュ内における市民の中から男女各25名ずつ合計400名の回答者を選定した。回答者の個人属性を表-1に示す。

3 調査方法

調査方法は、イメージ連想法と呼ぶものとし、連続的自由連想法によった。すなわち、刺激イメージとしての城郭に対して、自由な連想を数多く次々と求めたものである。なお資料の収集は、直接面接法によって行ないテープに録音したものを調査者が連想反応順位に従って記録した。

反応時間は限らないものとし、次のような教示を与えたものである。“あなたは、岩手公園と言ったならば盛岡市内外の自然的環境、及いは人工的環境の中でのどのような物を連想しますが、思いつく順序にできるだけたくさん言って下さい。”

4. 解析結果、及び考察

連想された要素を連想反応頻度別に20位まで示すと、表-2のようになる。このうち都市（の物的）要素に着目して連想反応頻度とその順位の関係を求めれば、図-1のようになる。また、連想された都市要素の連想反応頻度を確率で表現し、その位置を地図上にプロットすると図-2のように示される。なお、図中の番号は表-2の要素番号に相当している。次に、連想反応順位と連想反応頻度の関係を図-3に示す。最後に、連想された都市要素がどの程度、回答者に共通に連想されているかを情報理論の式（エントロピー $H = -\sum R_i \log P_i$ 、相対エントロピー $R = H / H_{\max}$ 、ここで m を要素数、 S を回答者数とする、 $m < S$ のとき、 $H_{\max} = \log m$ 、 $m > S$ のとき、 $H_{\max} = \log S$ ）を適用して定量化し、その結果と連想反応順位の関係を示すと図-4のようになる。

図-1から分るように、連想反応頻度とその順位の関係は対数曲線的に減少していることが知られ、共通に連想される都市要素は比較的少数の要素に集中している。しかも、図-3において知られるように連想反応順位の早いものほどその傾向を示すので、

表-1 回答者の個人属性

性別	男	200
	女	200
在住年数	0~10	97
	10~20	139
	20~	166
	20~30	60
年齢	20~30	60
	30~	340
合計		400

表-2 連想された要素（20位まで）

連想反応頻度順位	連想反応頻度	連想反応頻度順位	連想反応頻度
1 岩手山	204	11 横山神社	24
2 中津川	141	12 北上川	20
3 サニビル	135	13 花見	18
4 教育会館	108	14 岩手山	17
5 セントラルビル	57	15 岩手日報社	17
6 石川町木	56	16 盛岡市	14
7 横山	42	17 市役所	14
8 県庁	31	18 農沙門橋	14
9 中の橋	30	19 南部藩	12
10 岩手銀行	30	20 市の中心	12

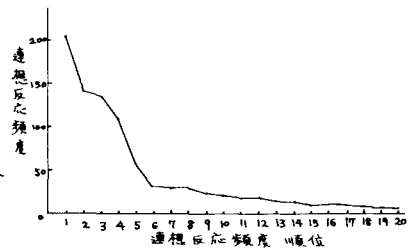


図-1. 順位別連想反応頻度